



令和7年9月15日
第897号

一般財団法人日本遺族会
〒100-0044 東京都千代田区
九段南一丁目六番五号
九段南会館テラス四階
電話 03-3261-5521
00160-6-25389
振替 発行人 盛川英治
編集 毎月1回15日発行
定価 1部130円(税込)

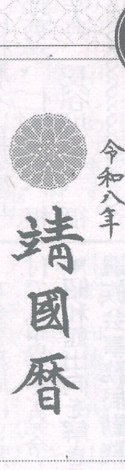
日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

おり、今回の追悼式で「語り継ぐ」という言葉が初めて盛り込まれた。
また、戦没者遺族を代表して江田肇本会常務理事(埼玉県遺族連合会会長)が追悼の辞(全文別掲)を述べ、「平和の語り部事業」を通じて、平和の有難さ、戦いの悲惨さを後世に継承し、次世代による活動の拡充を目指し努力することを誓った。
遺族の参列者で、最高齢は98歳の弟、最年少は3歳の玄孫(配偶者(妻)の参列は初めて)と、切なさにあふれた。記者会見などで繰り返し語られて

戦後80年の節目の8月15日、日本国内では各地で慰霊行事が行われた。厚生労働省の事前調査資料によれば、44都道府県内で都県主催の追悼式や、市区町村主催の追悼式が計画され、約3万9,000人の方々が参列される予定とあった。そんな中、先の大戦で中国に次ぎ51万8,000余の戦没者が眠るフィリピン共和国で、在フィリピン日本国大使館主催の「令和七年日本人戦没者慰霊祭」がルソン島ラグナ州カリラヤ日本人戦没者慰霊園で厳かに今年も開催された。この慰霊祭に、本会から初めて代表が参列した。式典は「マニラ日本人会合唱同好会の皆さんによるフィリピン、日本両国歌斉唱」で始まり、石破首相、マルコス大統領からのメッセージが代読された。遠藤和也大使は「我が国を取り巻く安全保障環境は、戦後最も厳しく複雑な状況にある。このような時であるからこそ、80年の歳月が経った現在、改めて、戦争の悲惨さと平和の尊さを深く心に刻み、その記憶を風化させることなく継承していくことが重要だ」と述べた。日本、フィリピン両国から約250人が参列し、彼の地から先の大戦で亡くなった方々の冥福を祈った。翻つて、日本の靖国神社には老若男女約6万3,000人が参拝されたが、国民を代表する国会議員の参拝2面参照が減ったことは、誠に残念である。(M)

令和八年 靖国暦

靖国神社では毎年「靖国暦」を頒布しています。
本暦は、昭和二十三年から発行しているもので、嘉永六年から明治・大正・昭和の「御祭神ゆかりの主な出来事」を月毎に掲載しております。
座右に置かれて、日々ご活用戴きたく存じます。



- 好評頒布中
- 令和八年
- 靖国暦
- 体裁...B6判 ●頁数...四十八頁
●編集発行...靖国神社社務所
- 主な内容
- 靖国神社の由緒
 - 人生儀礼の説明
 - 靖国神社の祭事暦
 - 手水・玉串拝礼の作法
 - 家庭のみたままつり
 - 全国の護国神社一覧
 - 年中行事と節氣
 - 年齢早見表
- 頒布価格
- 一部三〇〇円(送料一四〇円)
※三〇〇部以上取りまとめの場合は割引となります。
※二部以上の送料はお問い合わせ下さい。
- お申し込み方法
- 「はがき」または「FAX」にて部数・郵便番号・住所・氏名・電話番号をご記入の上、お申し込み下さい。
※暦と同封の払込取扱票にてご送金下さい。
お問い合わせはお申し込み
- 靖国神社社務所 祭儀課
- F102-8246
電話 03(3261)8326(代表)
FAX 03(3261)8320(直通)

80年の戦後 全国戦没者追悼式 戦中・戦後の苦難を語り継ぐ

80回目の終戦の日を迎えた8月15日、政府主催の全国戦没者追悼式が天皇后両陛下のご臨席を仰ぎ挙行された。陛下はおことばで戦争の記憶の継承について初めて触れられ、「戦中・戦後の苦難を今後とも語り継ぎ」と述べられた。全国47都道府県遺族代表約3800人が参列し、戦争の犠牲者の冥福を祈り、不戦の誓いを新たにされた。

日本武道館で挙行された全国戦没者追悼式は、天皇后両陛下のご臨席のもと、内閣総理大臣、三権の長、国務大臣、各政党、地方自治体、経済界等、各界の代表はじめ、本会水落敏栄会長など総勢約4500人が参列し、戦争犠牲者に対し黙祷を捧げた。

石破茂総理は式辞で「あの戦争の反省と教訓を今改めて深く胸に刻まなければなりません」と述べ、13年振りに「反省」という言葉が盛り込まれた。(全文別掲)の中で、「戦中・戦後の苦難を今後とも語り継ぎ、私たち皆で天皇陛下をおことばも語り継ぎ、私たち皆で」という言葉が盛り込まれた。

天皇陛下おことば

本日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦においてかけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

終戦以来80年、人々のたゆまない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられましたが、多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。戦中・戦後の苦難を今後とも語り継ぎ、私たち皆で心を合わせ、将来にわたって平和と人々の幸せを希求し続けていくことを心から願います。

ここに、戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願ひ、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります。

追悼の辞

本日ここに、天皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、各界代表をはじめ全国各地から遺族の代表が集い、全国戦没者追悼式が厳粛に執り行われるに当たり、戦没者遺族を代表し、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

先の大戦が終りを告げてから八十一年目を迎えました。我が国は、この歳月において、塗炭の苦しみの中から、国民の懸命な努力によって、今では世界有数の民主主義国家となり、平和と自由を享受しております。

しかし、この陰には国を思い、最愛の家族の幸せを願ひ、故郷の友や山河を懐かしみながら散華なされた多くの戦没者がいることを、私たちは決して忘れることはありません。

私の父は、母が二十三才、私が二才、妹はまだ母のお腹の中の時、三十一才で亡くなりました。朝鮮で終戦を迎えた引揚船でしたが、途中、朝鮮海峡において機雷に接触、沈没したとのこと。生きて終戦を迎え、家族と共に将来の夢や希望を抱いていた父の無念さは計り知れません。

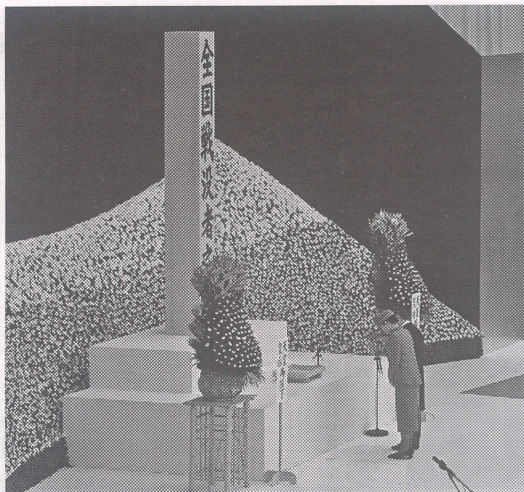
家族の大黒柱を失いながらも、祖父と母は懸命に家業の農業を続け、その苦勞を子どもたちに感じさせるよう

令和七年八月十五日
全国戦没者遺族代表 江田 肇

令和8年度概算要求

平和の語り部事業に2億6千万円

本会の最重点要望事項予算計上



戦没者に黙祷を捧げる天皇后両陛下
= 8月15日、日本武道館で

誠に残念である。(M)

平和の語り部

第6回定期講話会を開催

遺品による講話と座談会

戦争体験者の遺族と戦後生まれの青年部が共に記憶の伝承に取組む遺族会の語り部事業の普及、拡大を図るための本部主催第6回定期講話会は家族で取組む夏休みの課題2回目として、戦没者の遺品(日記、手紙等)から考える講話と体験者の記憶の聞き取り座談会を開催。本会および東京都遺族連合会の語り部に対する初のテレビ取材も行われた。

8月3日に開催された第6回定期講話会は岩淵族会理事による学校における講話が披露された。



体験者と次世代、学生による座談会
= 8月3日、九段会館テラスで

岩淵氏の父上は、「職業軍人(海軍所屬)であったことから、出征の度に遺書をしたためていた。加えて戦時中の日記、家族に宛てた多数の手紙が残されている。講話は父、妻に宛てた遺書、日記からサイパンへ向かう様子、現地での暮らし、子供たち宛ての手紙からは、小学校に上がる長女にランドセルを贈ることや妻や子どもたちの健康を願う父の愛情を伝えた。会場には軍服、軍刀、自作の現地の地図など多くの遺品や遺骨収集の際の写真が並べられた。岩

岩淵氏の父上は、「職業軍人(海軍所屬)であったことから、出征の度に遺書をしたためていた。加えて戦時中の日記、家族に宛てた多数の手紙が残されている。講話は父、妻に宛てた遺書、日記からサイパンへ向かう様子、現地での暮らし、子供たち宛ての手紙からは、小学校に上がる長女にランドセルを贈ることや妻や子どもたちの健康を願う父の愛情を伝えた。会場には軍服、軍刀、自作の現地の地図など多くの遺品や遺骨収集の際の写真が並べられた。岩



戦没者の遺品をみつける参加者
= 8月3日、九段会館テラスで

いと語った。次に「記憶の聞き取り座談会」は体験者、次世代を5グループに分け行われた。戦死公報、ご遺骨のことに加え、今回の講話のテーマである遺品(手紙、はがき等)に関する質問がなされた。夏休み企画ということもあり、半数以上が次世代、学生の参加となり、千代田区内の学校に通う中学生の参加もあった。遺品を初めて見た、親族以外から初めて体験を聞いた、家族の体験も聞きたいと思ったなどの感想が聞かれた。当日はテレビ局の取材も行われ、後を待ちしている。

みんなで参拝 衆・参議員52人が参拝

8月15日、「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」は、自由民主党、日本維新の会などの衆・参国會議員86人(議員本人52人、代理34人)が揃って参拝し、日本遺族会を代表して水落敏栄会長が一緒に参拝した。参拝した国会議員のうち2人が副大臣、3人が政務官だった。

また同日、小泉進次郎農林水産大臣、加藤勝信財務大臣の二閣僚が参拝した他、前日の14日は森山裕幹事長が昇殿参拝した。一方、石破茂総理は参拝せず、代理人を通じて私費で玉串料を納めた。昨年10月に石破内閣が



昇殿参拝を終えた「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」= 8月15日、靖国神社で

した、逢沢一郎衆議院議員は「多くの戦没者に対し改めて尊崇の念を持ち、戦争の記録や記憶を風化させず、次世代へ語り継いでいかなければならない。日本遺族会を中心に平和の語り部事業を積極的に展開しているが、そういった活動を国政の場からもしっかりと支えていきたい」と強調した。

参拝者数は、過去最低水準に並ぶ由々しき事態だ。本会・支部は「一丸となり、国民を代表する国会議員へ、靖国神社の参拝の意義について粘り強い説明と、陳情運動を引き続き展開し、参拝を強く求めていく。」

みんなで参拝 衆・参国會議員

「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」で参拝した52人の衆・参議員は次のとおり。

- 【国民民主党】かごしま 彰宏
- 【参政党】梅村みずほ
- 【無所属】齊藤健一郎
- 【国民民主党】山口俊一
- 【日本維新の会】東徹、池下卓、伊東信久、高橋英明、三木圭恵、和田有一朗
- 【国民民主党】西岡義高、向山好一、村岡敏英
- 【日本保守党】竹上裕子
- 【参議院】
- 【自由民主党】有村治子、磯崎仁彦、越智俊之、梶原大介、加藤明良、北村経夫、見坂茂範、鈴木大地、鈴木宗男、永井学、中西祐介、橋本聖子、堀井巖、舞立昇治、松村祥史、宮本和宏、山合えり子、山本佐知子
- 【日本維新の会】青島健太

本会事務局で 人事異動

本会事務局は9月1日付で人事異動を發令した。▼昭和館・調査役(総務課長代行) 小松 望

令和8年度概算要求

平和の語り部事業大幅増額

来年度予算案の編成に向け、各省庁は財務省へ概算要求を提出した。賃金、物価上昇、高齢化による医療年金などの費用が増額され、総額は過去最大で122兆円台半ばになるとの見通し。本会関係では、最重要事項であった「平和

の語り部」に2・6億円が計上された。令和7年度予算からは約1.5倍、補助事業に新設された令和6年度からは約10倍の大幅増額となる。節目の年に本事業の意義を高めるため、本部支部は「一丸となって周知に努めてきた。

本会は学校での更なる利用を図るため、4月厚労大臣、文科大臣に要望。厚労省の協力依頼を受け、文科省は各都道府県教育委員会等へ本事業の周知と積極的活用を通知、結果既に昨年一年間で連日報道され、記憶の伝承の意義が伝えられ

た。こうした報道が評価され「戦没者の慰霊・記憶の継承」として、本事業の大幅増額、地域慰霊と記憶の継承の検討の費用が新たに計上されたと推測する。

この他、遺骨収集事業の事業費、鑑定体制の強化、遺留品返還費用等に加え、昭和館運営費も増額された。本会は概算要求が本予算となるよう一丸となって要望を展開する。

第50回慰霊大祭を斎行

英霊にこたえる会主催

英霊にこたえる会主催の「第50回全国戦没者慰霊大祭」が、終戦80年目を迎えた8月15日午前9時から、靖国神社で斎行された。慰霊大祭には、英霊にこたえる会特別顧問の水落敏栄本会会長はじめ自衛隊の統合・陸上・海上・航空幕僚長(各代理)、中央参加団体代表等約200人が参列した。



英霊に黙祷を捧げる参列者
= 8月15日、靖国神社で

祭文を奏上した。最後に献束ののち参列者が本殿に進み、玉串を捧げ拝礼した。

本会事務局は9月1日付で人事異動を發令した。▼昭和館・調査役(総務課長代行) 小松 望

本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報報は「個人情報保護法」の定めにより、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

令和7年度・戦没者遺児による慰霊友好親善事業・実施計画概要

	実施地域	実 施 時 期		募 集 人 員	申 込 締 切
		主 な 訪 問 予 定 地			
1	フィリピン (特定地域)	令和7年12月10日（水）～12月17日（水）		7泊8日	120人
		令和7年10月10日			
		・ A班＝マニラ及び東方山地 ・ B班＝クラーク、マニラ南方（リバ、ルセナ） ・ C班＝ルソン島北部（バギオ、クラーク） ・ D班＝ルソン島北部（パレテ峠、ソラノ、キャンガン、オリオン峠） ・ E班＝ネグロス島（バコロド）、ミンダナオ島（ダバオ） ・ F班＝セブ島、レイテ島（タクロバン、ブラウエン、リモン峠、ビリアバ、カンギボット山、オルモック）			
2	ミャンマー (特定地域)	令和8年3月7日（土）～3月15日（日）			
		前班 令和8年3月7日（土）～3月13日（金）	6泊7日	30人	令和7年12月5日
		後班 令和8年3月9日（月）～3月15日（日）	6泊7日	30人	
		・ ヤンゴン（ラングーン）、ペゲー			

※ミャンマー地域は、現地の情報を適宜収集し、実施に向け準備いたします。そのため、取り止めも含め日程の変更の可能性があること、ご了承願います。

好業
友事
慰親
霊善

令和7年度で事業終了

フィリピン、ミャンマーを実施

日本遺族会が厚生労働省から補助を受け実施する「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和7年度の参加者を募集している。終戦80年、事業実施35周年となる本事業では、フィリピン地域とミャンマー地域の2地域を実施する。本年度で最後の事業実施となるため、一人でも多くの遺児に青年部世代とともに参加願いたい。

「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和7年度の参加者を募集している。戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぐことを目的に、青年部育成の一環として、付添者で戦没者

の孫、ひ孫、甥、姪の青年部は国より3分の1の補助※が受けられるため、是非この機会に一人でも多くの遺児に青年部と共に参加願いたい。募集要項は次の通り。

計画概要参照。
▼参加費 10万円。
東京等に集合し、結団式及び渡航に係る説明会を行う。なお、集合場所まで及び解散場所からの交通機関は自身の手配となる。また、移動に係る

国内交通費及び帰国時の宿泊代、渡航手続き手数料等費用は、個人負担となる。
※付添者の補助は、実際に掛かる旅行費用の3分の1が対象となる。

▼参加資格 戦没者の遺児。(周辺公海上を含む実施地域で父等を亡くした方に限る)
▼申込方法 在住の各都道府県遺族会事務局へ参加者の資格審査には、申込書の記載内容を確認するため、事前に申込書を取り寄せ、記入項目に不明な点(戦没者の部隊等は各遺族会に相談し、記入した上で提出願う。)

なお、申込多数の場合は選考となる。
実施地域や実施時期等は、相手国や交通機関等の事情で変更、延期、中止となる場合がある。また、参加者の高齢化に考慮し看護婦が同行する。

8月3日から9日の期間で、フィリピン・ミンダナオ島、ルソン島で厚生労働省が管理状況を「不良」と判定した慰霊碑を踏査した。

ミンダナオ島では、プギドノン州マライバイライたいとの意見が聞かれた。船は八重山群島沖を航行中午後3時7分デツキにて第9回南薩諸島沖慰霊祭を挙行。

その後、入国説明会に続き、語り部研修第7回(まとめ)。本部より参加者全員に洋上慰霊の体験等を伝える語り部になった。神戸港入港に先立ち解散式。水落団長により総括がなされた。

夕食後、団員の発案により急遽交流会が行なわれ、お国自慢披露など相互の交流が図られた。

終戦80年・慰霊友好親善35周年記念事業
洋上慰霊 船内だより

8日目(6月8日) 晴
午前10時、語り部研修第4回は団長水落敏栄本会会長による講演。日本遺族会の歴史と戦没者遺族に対する歴代天皇陛下の御心を聴講。

その後、自分史・家族史の座談会。旅程も終盤となり慰霊や研修を通して参加者同士の交流も深まり体験者、次世代とも活発な意見が交わされた。

船は比・ルソン島を離れ太平洋を航行中、午後3時、7Fスポーツデッキにて第8回太平洋沖海域洋上慰霊祭を挙行。(関係遺族13人)数日前に雨季に入り、雨雲を避けて航行。慰霊祭に掲揚する日の丸が外れるほどの強風の中、参加者は亡き父

追悼の言葉を捧げた。午後8時30分、7Fデッキにて航海士による星空教室。星座の説明を受け、雄大な星空を眺めた。

9日目(6月9日) 晴
午前10時、語り部研修第5回は大石功氏(静岡県遺族会会長・本部語り部推進委員)の「父の足跡」と題した講話を聴講。父の形見の着物を着た大石氏は遺骨が奇跡的に帰還した経緯、戦後の母の苦労、語り部事業取組を説明した。その後、各グループ代表により自分史・家族史座談会の発表が行われ、体験者、次世代双方から語り部になり

たいとの意見が聞かれた。船は八重山群島沖を航行中午後3時7分デツキにて第9回南薩諸島沖慰霊祭を挙行。

その後、入国説明会に続き、語り部研修第7回(まとめ)。本部より参加者全員に洋上慰霊の体験等を伝える語り部になった。神戸港入港に先立ち解散式。水落団長により総括がなされた。

夕食後、団員の発案により急遽交流会が行なわれ、お国自慢披露など相互の交流が図られた。



218人による自分史、家族史の座談会
=6月3・4・8・9日、につば丸で



南薩諸島沖洋上で全10回の慰霊祭を終えて
=6月9日、につば丸で

フィリピンへ派遣
慰霊碑移設等及び調査事業

日本遺族会が厚生労働省から委託を受け実施している海外民間建立慰霊碑移設等事業及び本年度新規事業の民間建立慰霊碑等調査事業はフィリピンでそれぞれ事業を実施した。

8月3日から9日の期間で、フィリピン・ミンダナオ島、ルソン島で厚生労働省が管理状況を「不良」と判定した慰霊碑を踏査した。

ミンダナオ島では、プギドノン州マライバイライたいとの意見が聞かれた。船は八重山群島沖を航行中午後3時7分デツキにて第9回南薩諸島沖慰霊祭を挙行。

その後、入国説明会に続き、語り部研修第7回(まとめ)。本部より参加者全員に洋上慰霊の体験等を伝える語り部になった。神戸港入港に先立ち解散式。水落団長により総括がなされた。

夕食後、団員の発案により急遽交流会が行なわれ、お国自慢披露など相互の交流が図られた。

本会への
賛助金のお礼
本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。

福島県で日章旗返還
無言の語り部 村に寄贈

戦没者等の遺留品返還に伴う調査事業で、アメリカの非営利団体OBO Nソサエティから本会に照会があった日章旗が、福島県川内村出身で、昭和19年2月24日にマリアナ群島エンチャビ島で戦死した大山重郎さん(重郎さんの甥の坪井利一さんら遺族の元に返還された。



坪井さん(左から4人目)ら遺族に返還された日章旗
=7月14日、川内村複合施設ゆふねで

7月14日、川内村保健福祉医療複合施設ゆふねで返還式が開催され、川内村遺族会秋元和三会長から利一さんへ日章旗が引き渡された。寄せ書きを目に坪井さんは、「この世に生き、戦地に赴いた証し」と述べた。

返還式には川内村遠藤雄幸村長はじめ、遺族会代表が出席した。

語り部大会各地で開催

各方面で報道ぞくぞく

終戦80周年記念事業として、戦争体験者である戦没者遺族の貴重な記憶を伝え、戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代と共に考える「平和の語り部事業」の広報と更なる育成を図る「平和の語り部大会」が各地で開催された。体験者と次世代の多様な形態の語り部が披露され、大きな反響を呼んだ各地域の様相を紹介する。

○7月23日(福井県) ね7月より小中高校で講 次世代5人による多様な 話を開始。6月には組織 講話を披露。酒井秀和会 治体、マスコミ双方への 継承を確実にするため会 長は、遺児の活動に敬意 広報を展開。大久保清市 長、副会長に次世代が就 任し遺児が支える体制を 意気込みを語った。同県 委員長(鯖江平和祈念館 館長)を中心に研修を重 敷いた。大会では体験者 活動の中心である平田修

皇道の先駆となつて散ります

陸軍大尉 佐々木 亮

昭和十九年十月二十六日
比島レイテ島レイテ湾海上にて戦死
秋田県平鹿郡里見村出身 二十四歳

前略

まことに親不孝の限りを盡し、唯々決戦の大空で最後の御奉公により、 萬分の一の罪滅しをしようと存じて居ります。

亡父も涙でござる愚息の不甲斐無さを歎いて居られる事と存じます。 人生二十四年間、何に例へん父母の恩も無駄に仇で返すが如き、不品行 を重ねし私もせめて軍人になりし爲に何とか解決場所を見つけた様な、 せめてものあきらめ処と思つて居ります。

僅か数日で射通すが如き太陽の爲、眞黒になつて「バナナ」をかじつて 居ります。

内地は銃後も此処を限りと頑張つて居る事と信じます。

人類永遠の平和の来る迄は皇道の先駆となつて散ります。

何卒、母上様も八千代も身体を大切に進むべき道を邁進されん事をお願 ひし且つ祈つて居ります。

母上様
八千代殿

敬具
亮より

【令和七年九月靖国神社社頭掲示】

愛しきものへ

テレビ局をはじめ新聞の 社説に取り上げられるな ど大きく報道された。

三宅槇造理事長は記憶 の継承は遺族の責務。本 日の内容を踏まえ県下で 実践しようと呼びかけた。

○8月9日(佐賀県) 地元での戦中戦後の暮 らし、引き揚げの苦労、 長崎の被爆体験を継承す る次世代の講話が披露さ れ、地元高校の放送部2 人が司会進行を担った。

次会長代行は誰もが思い を伝える語り部になる機 運が生まれたと総括した。



遺族会の語り部を高く評価した山口知事
=8月9日、佐賀市で

平和の語り部事業

各地で多様な取組み

中でも西田富子会長作 の出征兵士を見送る家族 の朗読劇は体験者と次世 代の共演に会場は涙に包 まれた。山口祥義県知事 はじめ、首長、教育関係 者も駆けつけ、遺族会の 目指す語り部の意義は大 きく報道された。

大会後、県はすべての 学校へ朗読劇のDVD配 布を決めた。本部は本朗 読劇を活用した学校での 語り部を提案予定である。

岩出市遺族連合会は 「資料で見える戦争展」を 市民俗資料館で開催。遺 族はもとより多くの市民 から2年がかりで借受け た資料は、出征旗、軍服、 鉄兜など遺品をはじめ、 戦没者の葬儀の際の弔 辞、祭祀料、弔問台帳や、 出征前の面会を求める電 報など、通常の展示会では 見ることのできない貴重 な資料が並んだ。

岡元清彦会長は、借受 けた資料は遺族の戦没者 への思いを伝える重要な 役割を担っていると述べ、 終戦80年の節目に記憶 の継承が社会的課題と



初の体験集朗読会で拍手に包まれる青年部
=8月17日、神奈川県で

戦没時計

戦争被害の時計達

終戦80年の節目に記憶 の継承が社会的課題と なっている。この度、戦 時下で被害にあった時計 を通して、戦争の悲惨さ を伝えるプロジェクトを 紹介する。

企画したのはアン ティーク懐中時計の修 理・販売を営む西村建二 氏。自身も戦没者の孫で

熊本県 高木 容子
長崎県 安原 恭子

THE WAR-TORN CLOCKS AND WATCHES
STILL CONTINUE TO APPEAL TO US FOR PEACE

戦争被害にあった
時計達は今も訴え続けています

戦没時計

～平和の象徴である時計が今も訴えを今に残す～

SUCCESSOR
JPS WATCH REPAIR SERVICE
西村 建二

地方だより

- 各支部遺族会で実施さ れた大会等は次の通り。
- ▲岡山県 7月29日 終戦80周年記念事業「平 和の語り部大会」令和7 年度岡山県遺族連語り 部研修会(80人)
 - ▲富山県 8月4日 終戦80周年記念植樹式並び に令和7年度忠霊塔合葬 追悼式(202人)
 - ▲青森県 8月28日 令和7年度青森県戦没者 遺族大会(134人)
 - ▲宮城県 8月28日 令和7年度宮城県戦没者 追悼式(202人)
 - ▲鹿児島県 8月24日 第3回鹿児島県遺族連合 会戦没者遺族の集い (120人)
 - ▲佐賀県 8月23日 令和7年度終戦記念全国 戦没者追悼慰霊祭(65人)
 - ▲福岡県 8月23日 終戦80年福岡県戦没者遺 族大会(1000人)
 - ▲鹿児島県 8月24日 第3回鹿児島県遺族連合 会戦没者遺族の集い (120人)
 - ▲青森県 8月28日 令和7年度青森県戦没者 遺族大会(134人)
 - ▲宮城県 8月28日 令和7年度宮城県戦没者 追悼式(202人)

令和7年度宮城県戦没者 追悼式(202人)